

## 不登校に関するアンケート調査について

### 1 各調査について

この検証・分析については、以下の調査結果を基に行った。

- (1) 文部科学省 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査
- (2) 県調査「不登校に関するアンケート調査」（令和6年3月4日～3月15日実施）【調査結果を参照】
  - 調査対象者：宍道高等学校（定時制）279人（通信制）1,347人 浜田高等学校（定時制）71人（通信制）247人 全1,944人
  - 調査方法：Web調査（グーグルフォーム）によりアンケートを実施
  - 調査回答者数：309人 回答率：15.9%

- ※1 (2)の調査より、小学校、中学校の時期に不登校を経験したと回答した生徒の実人数は210人
- ※2 ※1のうち、時期がわからないと回答した生徒が2人
- ※3 ※2のうち、【中学校1年生、わからない】と回答した生徒が1人、【わからない】と回答した生徒が1人
- ※4 ※3のうち、【わからない】と回答した生徒1人を除いた209人のデータで検証・分析を行った。

### 2 小学校在籍時に不登校であった児童について

(単位：人)

		学校に係る状況							家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし	
		いじめ	問題に関係をめぐり除く友人	教職員の関与の問題	学業不振	進路に係る不安	活動クラブ等への活動不適	学校での課題等	適学、進学、級転編入	家庭の急激な生活環境変化	親子の関わり方	家庭内の不和	生活リズム、非行		無気力、不安
(1) 令和4年度 文科省調査 小学校不登校児童数 (788人)	主たるもの (一人一つ選択)	3	62	5	31	0	0	4	27	21	90	8	86	383	68
	割合	0.4%	7.9%	0.6%	3.9%	0.0%	0.0%	0.5%	3.4%	2.7%	11.4%	1.0%	10.9%	48.6%	8.6%
(2) 県調査 小学校不登校経験者 延べ数(167)	主たるもの (一人一つ選択)	46	16	20	9	0	1	0	1	2	2	0	27	43	
	割合	27.5%	9.6%	12.0%	5.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	1.2%	1.2%	0.0%	16.2%	25.7%	
うち、低学年 (1～3年) (39)	主たるもの (一人一つ選択)	17	2	2	4	0	1	0	0	1	1	0	5	6	
	割合	43.6%	5.1%	5.1%	10.3%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%	12.8%	15.4%	
うち、高学年 (4～6年) (128)	主たるもの (一人一つ選択)	29	14	18	5	0	0	0	1	1	1	0	22	37	
	割合	22.7%	10.9%	14.1%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	17.2%	28.9%	

※割合は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない。

### 3 中学校在籍時に不登校であった生徒について

(単位：人)

		学校に係る状況							家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし	
		いじめ	人関係を除く友人関係	教職員の関係	学業の不振	進路に係る不安	クラブ等への活動、不適部	学校生活に関する問題等	入学、進学、転校の不適	家庭の急激な生活環境変化	親子の関わり方	家庭内の不和	生活リズムの非行乱		無気力、不安
(1) 令和4年度 文科省調査 中学校不登校生徒数 (1,123人)	主たるもの (一人一つ選択)	7	111	5	60	9	7	4	45	21	54	10	133	515	142
	割合	0.6%	9.9%	0.4%	5.3%	0.8%	0.6%	0.4%	4.0%	1.9%	4.8%	0.9%	11.8%	45.9%	12.6%
(2) 県調査 中学校不登校経験者 延べ数(435)	主たるもの (一人一つ選択)	72	60	33	18	1	9	0	5	7	4	10	62	154	
	割合	16.6%	13.8%	7.6%	4.1%	0.2%	2.1%	0.0%	1.1%	1.6%	0.9%	2.3%	14.3%	35.4%	

### 4 「左記に該当なし」の内訳

(単位：人)

		左記に該当なし					
		いかなる原因かわからなげ	特になし	動画、インターネット、SNSの影響	体調不良	無回答※	その他
(2) 県調査 小学校不登校経験者 延べ数(43)	主たるもの (一人一つ選択)	31	3	3	2	0	4
	割合	72.1%	7.0%	7.0%	4.7%	0.0%	9.3%
(2) 県調査 中学校不登校経験者 延べ数(154)	主たるもの (一人一つ選択)	87	15	4	8	1	39
	割合	56.5%	9.7%	2.6%	5.2%	0.6%	25.3%

※無回答生徒は、不登校の時期を  
「中学1年生、わからない」を選択した生徒

## 5 まとめ

- ・ 今回の調査は、文部科学省調査の対象者のそれぞれの割合を均等に抽出して調査したものではない。現時点で回答ができる生徒のみが回答しているという点に特に留意する必要がある。
- ・ 文部科学省調査では、「左記に該当なし」を除けば、小学校では「無気力、不安」、「親子の関わり方」、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」が、中学校では「無気力、不安」、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多い。
- ・ 県調査結果の不登校の主たる要因としては、「左記に該当なし」を除けば、「いじめ」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「教職員との関係をめぐる問題」、「無気力、不安」が多い。
- ・ 不登校を経験した児童生徒本人の受け止めとしては人間関係に起因するものが多い傾向があり、文部科学省調査時に要因を分類している学校との認識に違いがある。
- ・ この調査では、現在の時点で過去を振り返って不登校になったきっかけを回答しているのに対し、学校は調査に回答する時点で、調査項目にある要因に振り分けざるをえないため、外形的な要因を回答する傾向があると思われる。

## 6 今後の対応

- ・ 不登校のきっかけが、必ずしも学校の捉え方と一致していないことを学校に伝え、教職員一人ひとりの意識を変えていくことが必要。
- ・ 自分の周りの人との関係に何かしらのストレスを感じ、おそらくは、本人が自分でも気付かないうちに内面で抱えていることが徐々に積み重なり、外形的なことが表出して初めて、教職員や周りが気付くことになる。その背景には人間関係の悩みが隠れているかもしれないという視点を教職員が持つことの大切さを学校に伝えていく。
- ・ 児童生徒のわずかな変化などを見逃さないように、教職員一人ひとりが、今以上に高いアンテナを張り巡らし、校内で情報共有し、学校全体で対応してることが有効であり、そのために、教職員に対する研修を充実させ、教職員の意識の変化を図っていく。